

体に入ってくるルートを手を断て！

どうすれば、人を病気にしてしまう病原微生物を体内に入れないようにできるのだろうか。翔太の頭の中に、また新たな疑問がうかんできました。

「先生、病原微生物を体の中に入れなければ、病気になるんですか？」

「そうね、いろいろなケースがあるけれど、外から入ってくる病原微生物の場合は、体の中に入らなければ感染しないから、感染症にはならないことが多いわね」

「さわるだけでは感染しない？」と綾乃。
「さわるだけで感染することはまずないけれど、手に病原微生物がついていると、つい口などにふれてしまって、体の中に入ってしまうことが多いの。それで感染するのね」



「だから手を洗うのか」と、竜一は納得したように言いました。

「そう。人は手を使っていろいろなことをする生き物だから、手にはどうしても病原微生物がつきやすいの。手洗いは、感染症を防ぐ基本ね」

先生は、操縦席に座ってエンジンをかけると、「どんなところに病原微生物がいて、どうやって体に入るか見にいきましょう」と言って、ハンドルを回しました。すぐに別の場所に移動して、何かが見えてきました。

「先生、ドアが見えます」
「よく見て。ドアのノブに病原微生物がいるでしょう」

「本当だ」
「人の手がふれるところに病原微生物がいたら、それが自分の手について、口などから体の中に入ることがあるの」

「そうか、いろいろなところにいるんだな」
「もう一つ見ましょう」

みんなを乗せた小さな調査船は、電車の中に瞬間移動。そこに大きなくしゃみをしている人がいて、調査船がふきとばされました。



「わー、飛ばされる！」
「ほら、あのくしゃみをした人の口から、ウイルスが出てきているよ」

「いっしょに飛んでいく！」
次の瞬間、そばにいて、あくびをしていた人の口の中に入ってしまった。

「ほかの人の体に入っちゃった」
「つばなどから感染することもあるのね」
「かぜをひいた人はマスクをした方がいいんだね」

「さらに、もう一つ見にいきましょう」
調査船は、何か大きなふわふわしたものに着陸しました。どうやら空気の中をたどっているようです。

「これは何だ？」
「ほこりよ」
「ほこり？」

「そう。空気中にあるほこりなどに病原微生物がくっついて、それを人がすすぐことで体内に入ることがあるの。ほら」

先生がそう言うと、通りかかった子どもの鼻からずいこまれます。

「あっ、人の体の中に入っちゃった。病原微生物はいろいろなルートで体の中に入ってくるんだ」

「そのほか、食中毒のきっかけになる食べ物から感染してしまうこともあるわよ」

